

宮脇遺跡 第60地点

遺跡名	宮脇遺跡
よみがな	みやわきいせき
調査地点	第60地点
主な時代	平安時代（約1150年前）
調査地	富士見市羽沢3丁目1579-7、1580-14
調査面積	約30㎡
調査期間	令和元年7月1日～7月10日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 平安時代の住居跡1軒</p> <p>【出土した主な遺物】 土師器片、須恵器片</p> <p>【概要】</p> <p>宮脇遺跡は鶴瀬小学校から東に約400mの地点にあり、富士見江川の支流である権平川に形成された小支谷の左岸に立地しています。当遺跡の範囲は開発が進んでおり、大部分の様相が発掘調査によって明らかになっています。古代を中心に縄文時代前期および中期、古墳時代後期の集落跡が発見され、なかでも古代の鑄造工房跡や鍛冶工房跡は注目されるものです。</p> <p>今回の調査では、それらの工房跡が見つかった場所から、県道を跨いで西側の地点で平安時代の竪穴住居跡が1軒確認されました。住居に人が住まなくなってからはゴミ捨て穴として再利用されていたようで、覆土の上層からも遺物がまとまって出土しています。</p>



発掘調査の様子



平安時代の竪穴住居跡



住居床面近くで出土した土師器・須恵器



住居覆土の上層に遺物が集中している様子